

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立中目黒小学校
校長 山 本 真

令和6年度 目黒区立中目黒小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和6年6月22日(土) 午前9時30分～午後11時30分
・学校経営方針
・授業参観 など
- (2) 第2回実施日時 令和6年11月8日(金) 午前10時00分～午後12時00分
・授業参観
・人権オープンスクール参観 など
- (3) 第3回実施日時 令和7年2月4日(火) 午前10時00分～午後12時00分
・令和6年度学校評価アンケートの結果について
・来年度の学校運営について など

2 参加者

和田 茂 平野 幸恵 室井 理沙 稲葉 亮太郎

3 評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎(成果)、●(課題) ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会の意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度、地域との対応などについて	◎下の学年の子の面倒をよくみるが多く、また、あいさつもきちんとできるというご意見をいただいた。 ◎明るく素直な子が多く、教職員・保護者ともに協力し合っているというご意見をいただいた。 ●「学校生活が楽しい」の項目については、概ね良好である。昨年度と比較すると、様々な教育活動を実施できたことが要因と捉えている。	・管理職は教職員の健康に気を配り、教職員も心身の健康に気を付けるよう努力していく。 ・学習や生活の充実が児童の満足度につながるため、日々の授業の工夫や友達との関わりなど、生活の充実を図るとともに、教員の指導力の向上を目指していく。 ・児童が自己肯定感を得られるよう、よさや成果を認める指導ができるようにしていく。	・学校の雰囲気は概ねよいと思う。 ・教員の熱意が子どもたちにも伝わるとよい。 ・友達関係は良好である。 ・自分からあいさつができる子を育てていく。 ・中目黒小学校区の中でも私立や国立の中学校に進学する児童がたくさんいる。学校と地域のつながりが希薄にならないか心配である。 ・地域との連携については、地域行事への教員の

	◎教職員の対応については、概ね信頼感を得られている。 ◎教育活動全体の満足度では、肯定的な評価が多かったが、教育活動について、「判断できない」という意見もあった。	・引き続き、保護者、地域の皆様からの満足感、信頼感を得られるよう、また、学校が大好きな子どもたちが増加するよう、安定した学級経営・学校経営を心がけ、子どもたちに寄り添いながら、教育活動を工夫していく。	参加の難しさが懸念される。勤務の関係から強制はできないが、地域行事は子どもを成長させるよい活動であるので、声かけをして、できるだけ参加してほしい。
I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎年度初めの学校説明会で明確に伝えているので理解できるとのご意見をいただいた。 ◎教育目標は、実態に沿って策定されていると感じている。地域に開かれ、地域に根ざした学校だと感じているのご意見をいただいた。 ◎電子化され、紙の削減等よい反面、教育目標が伝え切れていない部分もあるので、周知の仕方を工夫していく。	・来年度も教育目標を教職員が十分意識しながら、子どもたちの実態や特性を的確に把握し、保護者・地域の方々の思いも受け止めながら、保護者会や学校だより等で情報を発信していく。	・教育目標や活動が広く届いたことはよいことである。今後も理解が得られるよう努めてほしい。 ・デジタル等を活用して教職員の皆様が働きやすい環境を構築していったほしい。 ・保護者や地域の伝達方法として紙と電子ではどれ位の割合で発信しているのか。引き続き、電子化を検討していく必要がある。
II 心の教育について ・「特別の教科 道徳」の授業の充実や命を大切に、思いやりの心をもって生活する指導の取組について ・いじめ防止等（未然防止・早期発見・早期対応）	◎心の教育の充実についての肯定的評価は、概ね良好である。 ◎児童が担任に困ったことをすぐに相談できる信頼関係があり、それが一番いじめ防止につながっているとご意見をいただいた。 ●小さなからかいや友達同士の大小のトラブルはあり、いじめ防止等（未然防止・早期発見・早期対応）に努めていくようにする。 ◎目黒区人権教育推進校として、「特別の教科 道徳」の授業や外部人材を活用して、「特別の教科 道徳」の時間の充実に図ることができた。テ	・学校では、「特別の教科 道徳」の授業を含めた全教育活動を通して、自他の生命を尊重し、思いやりの心を育んでいる。引き続き粘り強く言葉かけや指導を繰り返していく。 ・子どもたちの心情に寄り添うことを大切に、学校組織として、いじめの未然防止の徹底に努めていく。 ・他教科や日常生活と、道徳的価値とを結び付けながら教科横断的に学習できるよう年間指導計画を工夫し、より深い学びにつなげられるようにしていく。	・積極的に地域の中のボランティア活動に取り組み、子どもたちの郷土愛を高めていくことが望ましい。 ・心の教育は学校だけでなく、保護者・地域と連携して育んでいくことが必要ではないか。 ・いじめ防止等については、保護者は心配していると思う。子どもたちが安心・安全に過ごせるように保護者に伝えていくことが大事である。 ・困り感のある子がいると思われるので、その子たちへも配慮しながら指導していったほしい。

	ーマが「外国人」「障害者」に限定されていたので、さらに人権課題を広げ、心の教育の充実へ向けて指導していく。	・外部人材をさらに活用し、多様な価値観に触れるようにする。 ・ボランティア活動の機会を作り、全学年が関わられるようにしていく。	
Ⅲ 学習指導について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・学習用情報端末を活用しての学習の取組について	◎「学力定着・向上のために工夫した授業をしているか」の肯定的評価は、概ね良好であり、引き続き主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。 ◎マイプラン、マイタイム、マイプラン学習など、独自の取組のおかげで、とても主体的な子に育っているというご意見をいただいた。 ◎「先生が教える授業」から「子どもが学ぶ授業」への転換という点で楽しんで意欲的に授業に参加している様子がとても感じられるとのことご意見をいただいた。 ◎子どもたち一人ひとりの得意・不得意について、考えていただいている。勉強が分からなくて困っているときに、先生が助言してくれたとの意見があった。 ◎学習用情報端末の活用について、肯定的意見が多かった。 ●保護者は宿題は紙媒体のドリルを使ってほしいと思っている。内容によってはタブレット学習の不向きがあると思うとの意見が年度当初あり、発達段階により紙媒体のドリルを取り入れた。	・習熟度別少人数指導、高学年教科担任制による児童一人ひとりに沿った授業を工夫することで基礎・基本の定着につながっている。 ・マイプラン、マイタイム、マイプラン学習の取組をさらに充実させ、主体的に学習や生活できる児童を育成していく。 ・さらに指導力向上を図っていくことで見通す力・追究する力・振り返る力を身に付け、学力定着・向上を図っていく。 ・学力定着が不十分な児童には、放課後の時間を有効活用した「中目寺子屋」で個別指導をし、定着を図っていく。 ・児童も教員も学習用情報端末の活用慣れに慣れてきており、使いこなせるようになってきている。 ・教員は授業準備のための時間や情報モラルを含めた学習用情報端末の活用場面や活用方法の工夫・徹底が困難と感じている。使うことが目的ではなく、よりよい学習を進めていくためのツールの1つとして、効果的に活用できるように指導していく。 ・児童の実態に応じて紙媒体のドリルも併用していく。	・積極的に新たな教育に取り組んでいることは、保護者から評価を得ていると考える。 ・子どもの頃からデジタル環境の中で生活しているのでさらに、学習用情報端末を積極的に活用してほしい。 ・ICTの活用マナーについても指導していくことが大切である。 ・保護者の視点から、子どもたちは、学習用情報端末を自由に使いこなせているが、使い過ぎていると思うこともある。 ・学習指導に関して、先生方には指導力を高めてほしいと期待している。 ・教員が学習用情報端末の活用について、紙媒体と学習用情報端末のどちらを活用した方が効果的なのかを、特に、高学年では選択しながら進めていけるような工夫がほしい。

Ⅳ 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎体育・健康教育に関しての肯定的評価が全体的に上昇している。運動会を再開した結果であると考え。しかし、体力テストの結果をみると全国平均を下回る項目もあり、特に持久力が低いので、体力向上に向けて体を動かす機会や取組を増やしていきたい。 ◎朝の運動集会の取組はとてもよいと思う。体育の授業では、楽しく挑戦できるプログラム等の工夫もしてくださり、子どもも楽しく取り組んでいたとの意見があった。 ◎専任教員によるアドバイス等により、体育の技能が伸びているように感じるとご意見をいただいた。 ●水泳指導が少ないと感じているとのご意見があった。	・体力テストの結果を元に、児童に不足している力を補うような運動を、運動集会や授業の中で取り入れていく。 ・体力テストの課題点として持久力が低かったので、多様な動きを取り入れた運動を日常的に続け、学級で目標を立てて取り組むことで体力増進を図っていく。 ・遊びの中で体力を増進させられるよう外遊びを推奨していく。 ・楽しみながら体力向上を図れるような授業を工夫していく。 ・高学年教科担任制を実施しており、５・６年生ともに、全学級を体育担当の教師が指導している。 ・水泳指導に関しては、暑さ指数（WBGT）の数値の関係で実施できない時もあったので、水泳指導期間を長く確保し、できる日を増やしていく。	・体力テストの結果は、都と比べるとそこまで低くないが、マラソンや水泳の時間の確保をしながら体力の促進を行ってほしい。 ・体を動かす機会の減少が問題であると感じる。 ・ストレッチの機会を増やして基礎体力を向上させるとよい。 ・目標があると楽しく運動ができるのではないかな。 ・体幹を鍛えるための運動をさらに、取り入れる。 ・低学年のうちに、走り方の基本を身に付けさせることで、走る楽しさを感じることができると思う。 ・学校の中では、体育の授業は週３時間程度しかなく、また、休み時間も割当があるので、毎日外遊びはできない。体力を付けるための一層の工夫が必要である。
Ⅴ 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて	◎肯定的評価が大幅に上昇した。スポーツフェスティバルから運動会に変更したことが大きな要因であると考え。 ◎運動会、学習発表会、学校公開など、多様な行事があり、充実していると感じている。全校フェスティバルは他学年との繋がりが生まれ、とてもよい行事だと思っている。また、昔はなかったような係活動やクラブ活動があり、おもしろく見守っているとのご意見があった。	・特別活動の充実については、教職員も課題意識があるため、クラブ・委員会の指導や異学年交流のもち方などの改善点を踏まえ、来年度はさらに教育効果が高まるような活動にしていく。 ・異学年交流については、高学年をリーダーとしてさらに主体的な活動になるよう教職員の意識を高めていく。 ・地域や保護者の人材等に協力いただきながら、引き続き、特別活動を進めていく。	・様々な特別活動を工夫して取り組んでいてよい。 ・運動会が復活し、学習発表会が入場制限なしの全校参観になったので、保護者の評価は大幅に伸びている。 ・今年度はクラブ活動やフリースタイルプロジェクトで保護者ボランティアの協力があり、よかった。今後も、学校が全てを抱え込むのではなく、地域の人材や力をかりて特別活動を行っていくとよい。

Ⅵ 学校生活全般について ＜生活指導＞ ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎学校生活全般についての肯定的評価は、概ね良好である。しかし、保護者の方の中には、様々な背景や価値観をもつ児童を一つにまとめることが困難と感じている方もいることが理解できた。 ◎全体的に落ち着いていると思う。たくさんの子どもたちの心に寄り添うことは難しいと思うが、家庭でも地域でも協力し合い、子どもたちの成長を見守りたいとのご意見をいただいた。 ●子どもたちの学習用情報端末の使い方のルールが守れていない。	・生活のきまりについては、子どもたちが安全で安心して生活できるためのものであることを理解させるとともに、生活指導部会等で問題点や課題点について検討していく。 ・生活指導に関わる問題点については、教職員内で、確実に情報を共有し、組織的に解決できるようにしていく。さらには、地域や保護者への情報発信や情報共有も行い、連携しながら児童を育てていく。 ・学習用情報端末の使用ルールを教員が共有し、同じ姿勢で指導を続けていく。	・いじめは保護者の一番の関心事だと思うので、しっかり対応していただきたい。 ・毎年のクラス替えはよいと思う。 ・様々な背景や価値観をもつ児童を一つにまとめることは難しい。それぞれの個性を認め合う教育を考えてほしい。 ・とてもよくやっている子がほとんどであるが、学習規律に対しては、もう少し努力が必要な子もいる。 ・教員の指導力が学習規律の基盤なので、教員の意識を高め、魅力的な授業構築に努め、家庭と連携しながら進めていく。
＜防災教育・安全指導＞ ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎安全教育について肯定的評価は、概ね良好である。引き続き、事故や災害等について危機感をもち、安全教育をより充実させていく。 ◎学校は、防犯・防災への意識付けと指導を細やかにしている。避難訓練の機会が多く、避難経路などはよく理解しているとのことをご意見をいただいた。 ●避難所としての学校の防災計画が定まっていない。本当に大きな災害の時に備えての対策が不十分である。 ◎事件・事故防止として、警察や外部団体と連携しての安全指導を実施したのはよかった。	・避難訓練時の設定について、より実際の場面に近く、なおかつ様々な場面設定をし、児童自身に身を守るための行動について考えさせる活動にしていく。 ・月に1度の安全指導について、年間計画を見直し、児童が主体的に生活安全について考えることのできる（知識・体験）内容にしていく。 ・地域の防災担当チーフと連携して防災計画を立てる。また、校内の避難所の場所の確認をしていく。 ・引き続き、行政や地域等と連携しながら安全指導を進めていく。	・防災教育や安全指導に、しっかり取り組んでいるので安心している。 ・家庭でも有事の際の避難方法や防犯・防災への意識を高め、話し合うなどした方がよい。 ・首都直下型地震の際の対応の仕方も考えながら取り組んでほしい。 ・交通安全の知識は指導しているが、実技面での指導も強化していく。 ・防犯教育を年に1回やっているのはよい。 ・実際に災害が起こった時の連絡手段として NTT の災害ダイヤル（171）を学校でも入れたり、防災の専門家をお呼びしたりして、学校公開の時などに親子で防災を考える機会を設けてもよいと思う。

<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	●コロナが明けて、幼・保・小・中の連携や交流ができるようになり、幼稚園・保育園の学校見学や中学生の職場体験、めぐろ子どもいじめ会議への5年生の参加など、様々な連携や交流を行っているが、「実際に何をしているか、よく分からない」というご意見が多かった。	・保護者への情報が伝わっていないことが想定されるので、本校の教育活動について広く伝えていく必要がある。 ・小・中連携授業を通して、目黒中央中学区の5校が主体的に学び合う子どもの育成をしていることを引き続き、保護者や地域に伝えていく。	・どんな取組をしているのか、保護者や地域は分からないので、引き続き、丁寧で細やかな情報発信をしていく。
Ⅶ 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA活動の充実などについて	◎「学校が情報を分かりやすく伝えている」の肯定的評価は、概ね良好である。C4th Home&Schoolや学校ホームページ等でこまめに発信できたことが要因と捉えている。 ◎校長先生の「学校日記」（学校ホームページ）で、日々のタイムリーな様子がよく分かるようになった ◎C4th Home&Schoolでの担任との連携がスムーズにできてよい。	・引き続き、学校だよりや学級だより、C4th Home&School等で、こまめに情報を発信していき、随時学校の情報を伝えるようにしていく。 ・より具体的に学校の様子を伝え、児童の様子を知ってもらうようにする。 ・特に朝、教員が忙しくて、C4th Home&Schoolの既読を付け忘れ、保護者から電話がくることがあったので、返信・既読など必ず対応するようにしていく。	・引き続き、随時、情報発信を行う。 ・学級だよりを配信している学級としていない学級があるのではないかと推測される。できる範囲で取り組んでほしい。
Ⅷ 教員の人材育成について ・日常の職務を通して、教員の専門性と協働性及び教育公務員としての自覚を高める取組について	◎教員は自覚して取り組んでいる。若手教員が増えている中、指導技術を継承していくために、OJTの機会を充実させてきたことが要因と捉えている。 ◎校内研究が充実しており、互いに学び合いがあり、深まったと捉えている。	・引き続き、教育公務員としての自覚を維持し、授業力向上、服務事故防止に努めるとともに、児童育成のために日々研鑽を積むことができるよう、OJTの機会を充実させていく。 ・高学年での教科担任制をより活性化し、人材育成にも活用していく。	・校内研究で教材研究したものが、学年横断的に、また年度を超えて、共有できることは心強いと思う。引き続き学級・学年経営を通して、維持・継続していくようにする。
Ⅸ 教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業	◎C4th Home&Schoolや留守番電話機能の導入により、連携しやすいとのご意見をいただいた。便利になった反面、保護者への返信に時間がか	・教員が、困り感や悩みを抱え込むことなく、支援員や関係諸機関、地域などと協力し合い、学校の中だけでなく、チームで解決していく。	・個や全体指導、教科指導、人間育成を行う担任の仕事は大変であるが、やりがいのある仕事でもあるので先生方や学校に今後も期待している。

務の効率化・最適化について	かることが考えられる。データ活用やタイムマネジメントなどには、まだ課題があるのが要因と捉えている。 ◎都や区から「働き方改革」についての推進に関する周知がなされており、理解が深まり浸透したと捉えている。	・業務の引き継ぎ・役割が十分機能するような配置や分担を細かく決めて働き方改革につなげていく。 ・PDCAに努めるとともに、業務の効率化・最適化を意識して職務を遂行していく。 ・教育活動のDX化を積極的に推進していく。	
X 特色ある教育活動 ・40分授業午前5時間制について ・高学年教科担任制について ・学校裁量の時間（自学自習タイムやフリースタイルプロジェクト学習）について	◎学力は、様々な学びの中で身に付くものであり、40分授業午前5時間制と学力の相関関係を示すことは難しいが、引き続き、学力向上を目指していく。 ◎下校時間が早い日があることに関しては賛否両論ある。 ◎高学年教科担任制は、学力の向上、タスク管理、中学校への円滑な接続に繋がる素晴らしい取組だと思う。高学年の教科担任も専門の先生が教えてくださる方が、より興味深い内容を提供していただけるのでよいと思うとのこと意見をいただいた。 ◎高学年教科担任制は、今年度から始まったばかりなので、まだ比較評価ができない。 ◎学校裁量の時間、特にフリースタイルプロジェクトに関しては、高評価を得ている。	・区の施策の40分授業午前5時間制のねらいである、本制度により「生み出した時間の活用」を進めていくことで、学びや生活の質を向上させることができるよう、工夫した取組を展開していく。 ・40分授業午前5時間制のよさである、集中できる時間の増加を、効果的に活用していく。 ・小学校高学年教科担任制推進校として、引き続き専門性の高い授業を提供することにより、学力の定着を図っていく。 ・中学校へ円滑な接続を図り、中学校進学への不安を解消できるようにしていく。 ・教科担任制に関わる校内委員会を設置し、より効果的に推進できるようにしていく。	・40分授業午前5時間制については、家庭の事情により賛否両論あるが、引き続き取り組んで賛成の意見を増やすよう努力してほしい。 ・40分授業はとてもよいことだと思う。午前に知識的な側面を学び、午後はクリエイティブな内容を学ぶなど、制度・運用の仕方がよい。 ・「高学年教科担任制」は分からない、という回答が多いのではないかと。「専門性の高い授業」「中学校への円滑な接続」をしていくように取り組んでほしい。 ・フリースタイルプロジェクトは、どのくらい子どもたちがきちんとできているのか、心配な所もある。